



オ ラ メ ヒ コ

Hola! México

話題のメキシコがわかるレポート

【第1回】

メキシコってどんな国？ 入門編

砂漠にサボテン、ソンブレロをかぶった男性がテキーラを飲みながら、ギター片手に歌う、陽気な国民。これがメキシコのイメージでしょうか。近年、メキシコはBRICsに続く成長国のひとつとして、注目を集めています。このシリーズでは、5回にわたり、メキシコのさまざまな情報をお届けします。



中南米を代表する工業国

メキシコは、米国の南、北米大陸と南米大陸をつなぐ場所に位置しています。面積は日本の約5倍の約196万km²。南北に長いイメージがありますが、意外にも東西に広がっており、3つの時間帯を持ちます。首都のメキシコシティや世界的なリゾート地のカンクンなど、国土の大部分は日本との時差が-15時間(夏季は-14時間)あり、日本の午前9時は、メキシコでは前日の午後6時です。

スペインによる植民地統治を受けた歴史から、公用語はスペイン語であり、国民の約9割がキリスト教(カトリック)を信仰しています。1億人を超える人口は日本に次いで、世界第11位。先住民(人口の約3割)、欧州系(同約1割)、欧州系と先住民の混血(同約6割)から成っています。

メキシコは、世界最大の消費国である米国に隣接する地の利から、近年、米国向けの製造・輸出拠点として、海外の自動車、電気・電子機器メーカーが進出、工業国として発展を遂げています。

また、世界有数の資源国でもあり、石油や銀、鉛など豊富な資源を有しています。農業も盛んで、とうもろこし、さとうきび、コーヒーなどが生産され、アボカドやライムは日本にも多く輸出されています。テキーラ、ビール(ライムを落として飲むコロナが有名です)、激辛唐辛子ハバネロなどもメキシコの名産品として知られていますが、最近日本

国旗



緑は独立、白は宗教的な純粋さ、赤は統一を表す。ヘビをくわえたワシがサボテンの上にとまっている中央の国章はアステカ王国の建国神話に由来します。

国名	メキシコ合衆国
面積	約196万km ² (2010年)
人口	約1億1,498万人 (2012年推計値)
首都	メキシコシティ
言語	スペイン語
宗教	キリスト教(カトリック)が約9割
主要産業	工業(自動車・同部品、電気・電子機器など) 鉱業(原油など)

出所：世界銀行、U.S. Census Bureau International Data Base、外務省、JETROのデータをもとにHSBC投信が作成

で人気の職業体験型テーマパーク「キッズニア」も実はメキシコ生まれです。

メキシコの経済規模は世界第14位(2011年)で、1993年にAPEC(アジア太平洋経済協力)、94年に北米自由貿易協定(NAFTA)、OECD(経済協力開発機構)に加盟、G20のメンバーでもあり、今後、国際社会における存在感がさらに高まるのが期待されています。



メキシコ 激動の歴史

3世紀ごろ、マヤ歴で有名なマヤ文明が興り、14世紀にはメキシコ中央部にアステカ王国が建国されました。しかし、栄華を誇ったアステカ王国は16世紀、コルテス率いるスペイン軍の侵攻により滅亡しました。首都テノチティランの神殿があった湖はスペイン軍によって埋め立てられ、これが現在のメキシコシティになりました。その後、約300年もの間、スペインの植民地支配を受けたメキシコは、文明破壊や搾取という悲しい歴史を刻み続けました。1810年、スペインからの独立を目指した戦いが始まり、ついに11年後の1821年、メキシコは悲願の独立を果たしました。

19世紀半ば、西部の開拓に乗り出した米国と領土を巡る戦争になり、敗れたメキシコは領土の半分（現在のカリフォルニア州やテキサス州など）を失いました。その後は、独裁政権に対する民主化勢力の抵抗から1910年、メキシコ革命が勃発。内乱による混乱は生じたものの、1917年に憲法が公布され、革命による動乱は終結に向かいました。以後、社会改革が進行し、制度的革命党(PRI)が1929年から2000年までの71年間、与党として政権を維持し、一党支配体制のもとでの長期にわたる政治的安定を実現させました。

年	略史
1519年	コルテス率いるスペイン軍が侵攻、その後、スペインの植民地となる
1810年	スペインからの独立運動の開始
1821年	スペインより独立
1846年	米墨戦争 (国土の半分近くを米国に割譲)
1910年	メキシコ革命勃発
1917年	現行憲法公布
1994年	北米自由貿易協定 (NAFTA)発効、 OECD加盟
2000年	フォックス大統領就任 (71年続いた制度的 革命党政権から国民行動党に)
2012年	ペニャニエト大統領就任

出所：外務省のデータをもとにHSBC投信が作成

2000年に国民行動党(PAN)に政権が移りましたが、2012年の大統領選挙において再びPRIが政権を奪還、12月1日に46歳の若きリーダー、ペニャニエト氏が大統領に就任しました。(政治の詳細については次回以降のレポートでご紹介します)



メキシコ最大の都市で、中南米の中心的都市であるメキシコシティ



スペインからの独立を記念して建立された独立記念塔

魅力溢れる古代遺跡と世界有数のリゾート

インドやサウジアラビアなどとほぼ同じ緯度にあるメキシコは、国土の多くが標高1,000m以上に位置する、山あり、海ありの国です。高い山脈が国土の中央を貫いており、メキシコシティは富士山の6合目と同じ、標高2,240mの高地にあります。南部は熱帯雨林が広がり、中央部は高原、北部は乾燥地帯(砂漠もあります)と、気候に富んだ国です。

沿岸部にはカンクンやアカプルコなど世界的にも知られたリゾート地が多く存在します。また、かつて、マヤ文明、アステカ文明などの古代文明が栄えた場所でもあり、今でも残っている遺跡は、世界遺産に登録されているものも数多くあります。



現在、その数は文化遺産(27)と自然遺産(4)を合わせて31にのぼるなど、観光資源に恵まれた国です。

メキシコは日本からは直行便でも16時間程度はかかりますが、古代遺跡と美しいビーチを求め、新婚旅行を中心に年間約7万人(2010年)の日本人がメキシコを訪れています。

メキシコにとって観光業は主要産業のひとつであり、政府は外貨獲得や雇用拡大のため、観光業の振興に力を入れています。

歴史あるメキシコの食文化 世界遺産に

一般的に辛いことで知られるメキシコ料理は世界的に人気のある料理です。紀元前からの先住民の食文化とスペイン人の食文化の融合が生んだメキシコ料理。その起源は7,000年前とも言われる「伝統ある料理」であり、2010年にはユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。

メキシコ料理はとうもろこし、豆、唐辛子の3つの食材を基本とし、その他にもタマネギ、アボカド、ピーマン、トマトなど様々な食材が使われます。

また、メキシコ料理には唐辛子(チレ)が欠かせません。色、大きさ、形と多種多様でその種類は数えきれないほどあります。チレは種類により辛みの強さだけではなく、味も異なるので、料理によって使い分けます。生のまま、乾燥させたものや、油で揚げたり、またサルサ(唐辛子を使った調味料)の材料として様々なシーンで登場します。

日本でもよく知られている代表的なメキシコ料理は「タコス」ではないでしょうか。メキシコでは主食の薄焼きパン「トルティーヤ」に肉や野菜など色々なものを包んでサルサをかけて食べる軽食です。沖縄で有名なタコライスも起源はこのタコスです。他にも、ピーマンを大きくしたようなポブラーノという辛みのないチレの中にチーズや肉を挟み、卵と小麦粉をつけて揚げた“チレジェーノ”は

メキシコ風てんぷらとでも言ったところでしょうか。

また、食用サボテン“ウチワサボテン”の葉肉部分を使ったヘルシーなサラダもメキシコらしい料理です。表面のトゲを取り除いてから、薄く切って食べます。

メキシコ料理の奥深さを味わってみてはいかがでしょうか。



メキシコ家庭料理の代表格である“チレジェーノ”



サラダで食べると美味しい!? “ウチワサボテン”

「ラテンの国」メキシコらしさを感じる行事

9月16日はスペインの植民地支配からの独立記念日です。町中あちらこちらで飾り付けがされ、メキシコの国旗の色(緑、白、赤)に彩られます。記念日前夜、メキシコシティの中央広場には現職大統領が登場し、「ビバ メヒコ!(メキシコ万歳!)」と叫び、独立を讃えます。人々は泡の出るスプレーを掛け合ったり、卵の殻の中に紙吹雪をつめたものを投げつけあつたりと大騒ぎします。この時期、メキシコ全土がお祝いムードに包まれます。

10月31日から11月2日は死者の日。死者の魂に祈りを捧げる、日本でいうお盆にあたります。死者を偲ぶという点では日本と同じですが、あくまで楽しく明るくというのがメキシコ流。

「ガイコツ祭り」などと呼ばれることもあり、ガイコツの人形やお菓子など、町中にドクログッズがあふれ、メキシコらしい伝統的な行事です。



メキシコシティの中央広場



元メキシコ駐在者が語る メキシコの「へえ〜」

日本人が持っている典型的なメキシコ人のイメージは、『サボテンをバックに、大きなつばのソブレロ(帽子)をかぶりポンチョを着て、ギターを抱えた口ひげのおじさん』といったところでしょう。ただ、これは日本に対する『フジヤマ、ゲイシャ』とまでは言わないまでも、メキシコでこのような風体のおじさんを見かけることはマリアッチ*の楽団を除いて、まずありません。

*メキシコの代表的な楽団。ギター、バイオリン、トランペットなどで編成され、主に明るい響きの民族的な音楽を演奏する。

しかし、なぜ日本人にはこのようなメキシコ人のイメージが刷り込まれたのでしょうか。

その理由の一つは、かつて1960年代初めの日本で大人気を博したトリオ・ロス・パンチョス(Trio los Panchos)によるものではないでしょうか。メキシコのボレロ音楽を中心とした三人組のトリオ・ロス・パンチョスは、メキシコをはじめラテンアメリカ諸国や米国のヒスパニックの間で絶大な人気を得ていたのですが、1959年12月に初来日しました。その後も1966年まで数回来日し、日本公演のオリジナル曲「その名はフジヤマ」やラテン音楽のスタンダード曲となった「ベサメ・ムーチョ」、「キサス・キサス・キサス」、「ソラメンテ・ウナ・ベス」などを披露、1960年代の日本におけるラテン音楽ブームの先駆けとなりました。三人組によって日本に広まった歌に「ラクカラッチャ」というのがありますが、この軽快はメロディーの曲名が「ゴキブリ」という意味であることを知ってる人は少ないでしょう。

当時のトリオ・ロス・パンチョスのステージやレコードのジャケット写真の衣装を見ると、オーソドックスな黒のタキシードやスーツ姿のほかに、ソブレロとポンチョに口ひげでギターを抱えています。また、このころ、某製菓会社のチューインガムのコマーシャル・ソングを作り、日本のTVコマーシャルにおける初の外国人タレントとしても出演していました。

ところで、メキシコシティのとあるレストランでは毎晩マリアッチの楽団が入っていて、食事をしているテーブルを回って生演奏をしてくれるのですが、日本人を見ると必ず美空ひばりの「川の流れるように」を日本語で歌ってくれます。こんな異国で日本語の歌を、しかも現地のマリアッチの楽団が、と初めての日本人はかなり驚きます。彼らが何のきっかけでどう覚えたのか不思議でしたが、周りのメキシコ人のお客さんが何の違和感もなく美空ひばりの歌を聞いているという光景はこれまた不思議なものでした。



マリアッチの必需品 ソブレロ(帽子)とマラカス

< 当資料に関する留意点 >

- ▶ 当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社)が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- ▶ 当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。
- ▶ 当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。
- ▶ 当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。

< 投資信託に関する留意点 >

投資信託に係わるリスクについて

- 投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書(交付目論見書)」および「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認頂きご自身でご判断ください。

投資信託に係わる費用について

- 購入時に直接ご負担頂く費用・・・ 購入時手数料 上限3.675%(税込)
- 換金時に直接ご負担頂く費用・・・ 信託財産留保額 上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に
間接的にご負担頂く費用…………… 運用管理費用(信託報酬) 上限年2.1%(税込)
- その他費用…………… 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。
交付目論見書、「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」等でご確認ください。

注: 上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
費用の料率につきましては、HSBC投信株式会社が運用するすべての投資信託のうち、
ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

HSBC投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第308号

加入協会 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会